

平成 27 年 3 月期 の業績（連結）について

（1）売上高

当期の売上収益は前期比 75 億円（5.2%）減の 1,358 億円となりました。

6%台半ばの薬価引き下げに加え、長期収載品が想定以上に後発品使用促進策の影響を受けました。また、新製品についても薬価改定前の仮需要の反動に加えて、競合品との競争激化の影響から、当初計画を下回る結果となりました。なお、売上には Btk 阻害薬「ONO-4059」の導出に伴うギリアドサイエンシズ社からのライセンス収入の一部 83 億円を含んでいます。

主要製品の状況については次のとおり。

「グラクティブ錠」については、年間計画 320 億円に対して、12 億円下回る 308 億円となりました。

「リカルボン錠」は、仮需要の反動に加え、ビスホスホネート製剤の中でのシェアは上昇しているものの、副甲状腺ホルモン製剤（テリボン、フォルテオ）や活性化ビタミン D3 製剤（アルファロール、エディロール）との競合激化から前期比 8 億円減の 103 億円となりました。

「イメンドカプセル/プロイメンド静注用」は、仮需要の反動もあり、前期比 2 億円減の 86 億円となりました。

「リバスタッチパッチ」は、仮需要の反動はあったものの、前期比 4 億円増の 68 億円となりました。

「オレンシア皮下注」は昨年 9 月の投与制限解除以降順調に推移し、前期比 33 億円増の 41 億円となりました。

昨年 5 月に新発売しました 2 型糖尿病治療剤「フォシーガ錠」は、30 億円を計画しておりましたが、15 億円となりました。

また、昨年 9 月に新発売しました抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」は順調に推移し、25 億円となりました。なお、オブジーボの売上にはロイヤルティ収入は含まれておりません。

長期収載品については、想定以上に後発品使用促進策の影響を受け、末梢循環障害改善剤「オパールモン錠」が 248 億円、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」が 102 億円、慢性膵炎治療剤「フオイパン錠」が 61 億円、「オノンドライシロップ」が 58 億円、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」が 48 億円と、概ね 25%程度的大幅減収となりました。

(2) 営業利益

営業利益は前期比 116 億円 (44.0%) 減の 148 億円となりました。

売上高が前期比 75 億円減少し、薬価の引下げと製品別の売上構成の変化(原価率の高い新製品の売上割合が相対的に上昇)から売上原価が前期比で 24 億円 (7.3%) 増加し、351 億円となりました。

「研究開発費」は、オプジーボ関連への投資は積極的に進める一方で、その他経費を抑え、またライセンスに関わる減損額が減少したことから、前期比 31 億円 (6.9%) 減の 413 億円となりました。

「研究開発費を除く販売費及び一般管理費」は、「フォシーガ錠」および「オプジーボ点滴静注」の新発売に関わる経費が大きく発生したことや市販後調査費用が増加したことなどから前期比 38 億円 (10.0%) 増加の 422 億円となり、「販売費及び一般管理費」全体では、前期比で 8 億円 (0.9%) 増の 836 億円となりました。

また、「その他の費用」は、ライセンス契約の解約に関する和解金などの計上により、前期比 10 億円増の 26 億円となりました。

以上のことから、営業利益は前期比 116 億円 (44.0%) 減の 148 億円となりました。

(3) 税引前当期利益

税引前当期利益は前期比 112 億円 (37.9%) 減の 183 億円となりました。

営業利益が前期比 116 億円 (44.0%) 減の 148 億円となり、金融収支が前期比 5 億円増の 35 億円となりましたので、税引前当期利益は前期比 112 億円 (37.9%) 減の 183 億円となりました。

(4) 当期利益(親会社の所有者帰属分)

当期利益は、前期比 74 億円 (36.2%) 減の 130 億円となりました。

利益の減少にともない、税負担が 38 億円 (43.0%) 減少したことなどから、当期利益は、前期比 74 億円 (36.2%) 減の 130 億円となりました。

平成 28 年 3 月期の業績予想（連結）について

（1）売上収益

売上収益は前期比 7 億円（0.5%）減の 1,351 億円を予想しています。

昨年上市した「フォシーガ錠」、「オブジーボ点滴静注」のほか、主要新製品の売上増を見込むものの、長期収載品への後発品普及促進策の浸透によるマイナス影響や、ライセンス収入の減少から、売上収益は、前期比7億円（0.5%）減の1,351億円を予想しております。新製品群では、「ステーブラ錠」は8億円減の45億円を見込んでいますが、「グラクティブ錠」が12億円増の320億円、「リカルボン錠」が7億円増の110億円、「イメンド/プロイメンド」が9億円増の95億円、「リバスタッチパッチ」が17億円増の85億円、「オレンシア皮下注」が29億円増の70億円、6月より投与期間制限が解除となる「フォシーガ錠」が60億円増の75億円、そして「オブジーボ点滴静注」が10億円増の35億円と予想しています。また、長期収載品については、薬価改定はなかったものの、後発医薬品使用促進策の影響もことから、「オパルモン錠」が23億円減の225億円、「オノンカプセル」が12億円減の90億円、「オノンドライシロップ」が3億円減の55億円、「フオイパン錠」が11億円減の50億円、「キネダック錠」が3億円減の45億円と予想しています。

（2）営業利益

営業利益は前期比 8 億円（5.4%）減の 140 億円と予想しております。

売上原価は製品構成の変化から原価率が約 27%に上昇し、前期比 18 億円（5.0%）増の 369 億円を見込んでいます。

経費関連では、今期も引き続き積極的な研究開発投資を行っていきます。オブジーボ関連等の開発費用や、新製品の営業関連費用、市販後調査費用が増加するものの、退職給付制度の改定に伴う過去勤務債務の償却（退職給付費用の減少 63 億円）の影響から、「研究開発費」と「販売費及び一般管理費」の合計を前期比横ばいの 835 億円と見込んでいます。また、「その他の収益」の増加、「その他の費用」の減少で、16 億円の費用減を見込みますことから、営業利益は前期比 8 億円（5.4%）減の 140 億円を予想しております。

なお、「研究開発費」につきましては、オブジーボ等の開発パイプラインのステージアップなどで経費増があるものの、減損の減少と退職給付債務の減少から、前期比 3 億円（0.8%）減の 410 億円となる見込みです。また、「販売費及び一般管理費」は、営業関連経費が増加する一方で、退職給付債務の減少から、前期比 3 億円（0.8%）増の 425 億円となる見込みです。

(3) 税引前利益

税引前利益は前期比 18 億円 (9.9%) 減の 165 億円を予想しております。

営業利益が前期比 8 億円 (5.4%) 減の 140 億円となり、低金利と為替ヘッジ益の減少から金融収支が前期比 10 億円減少の 25 億円となることから、税引前利益は前期比 18 億円 (9.9%) 減の 165 億円を予想しております。

(4) 当期利益 (親会社所有者帰属分)

当期利益は前期比 14 億円 (10.6%) 減の 116 億円を予想しております。

税引前利益が 18 億円減少する一方で、法人税等の税金費用が 4 億円 (7.6%) 減少します。

以上のことから、当期利益は前期比 14 億円 (10.6%) 減の 116 億円を予想しております。

(5) 配当予想

27 年度の配当金は 1 株当たり 180 円 (中間配当 90 円) を予定しています。

(6) 中期的な業績見通し

業績については今期が底で、来期からは効能追加を予定しているオプジーボの肺がん領域の売上も本格的に寄与してくると考えており、その他のがん腫への効能追加も順次進めていくことにより売上拡大が期待できます。また、現在開発中の多発性骨髄腫治療薬「ONO-7057」やプライマリー領域では二次性副甲状腺機能亢進症治療薬「ONO-5163」の上市も期待でき、増収基調で推移できるものと考えています。

なお、引き続き開発パイプラインの拡充を進めるとともに、海外展開の推進についても一步一步着実に進めていきます。

(7) 今後のがん専門 MR 体制について

現在のがん専門 MR の人数は約 30 名ですが、肺がん領域等へのフィールド拡大を見据え、本年 10 月を目処に 120 名増員し、150 名体制にすべく取り組んでいます。

(8) ギリアドサイエンシズ社からのライセンス収入の計上について

昨年 12 月に Btk 阻害薬「ONO-4059」をギリアドサイエンシズ社に導出いたしました。前期 (平成 27 年 3 月期) に、ライセンス収入の半分 (83 億円) を一時金収入として計上しましたが、残りについては開発の進捗に応じて、複数年にわたって売上に計上していきます。

(9) ロイヤルティ・その他の営業収益について

決算短信の 23 ページに記載の「ロイヤルティ・その他の営業収益」について、前期（平成 27 年 3 月）の主な内訳はギリアドサイエンシズ社からのライセンス収入、オレンシア（点滴静注用製剤）のコ・プロモーションフィーです。今期の金額については開示できませんが、ギリアドサイエンシズ社からのライセンス収入の残りの一部、オレンシア（点滴静注用製剤）のコ・プロモーションフィー、オブジーボの海外売上に対するロイヤルティ収入を予定しています。なお、オブジーボのロイヤルティについては、現在承認されているもののみを対象としており、未承認のがん腫については計画に含んでおりません。